

## 平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 情報・システム研究機構

### 目的

「大量・大規模データを生産する領域に関する研究所（国立極地研究所・国立遺伝学研究所）」と「情報処理・情報基盤およびデータ処理や解析方法に関する研究所（国立情報学研究所・統計数理研究所）」から構成され、融合研究やデータ中心科学の創成に最適であるという当機構の強みを伸ばすため、機構に「コモンズ事業強化支援チーム」と「分野研究強化支援チーム」からなる「URASステーション（URAS）」を設置し、組織間連携や国際連携を強化することでデータ中心科学におけるコーディネート人材（T型、Π型人材）の不足という当機構の弱みを克服する。

URASの配置により、当機構が目標とするデータ中心科学の研究基盤の確立、ビッグデータ時代の研究を牽引する国際的研究拠点形成、異分野融合による新領域の創成を実現するとともに、機関間連携・国際展開による各研究所の大学共同利用機関としての機能強化を図り、当機構全体の研究力の向上を目指す。

### これまでの実績・進捗状況

- H25：URAを雇出し配置を開始  
研究力向上活動と環境整備
- H26：各研究所へのURA配置完了  
分野研究力強化を推進  
機構シンポジウム企画運営等、機構全体運営に寄与
- H27：機構戦略IRに関する  
法人第3期に向けた取組み

- ◆データ中心科学リサーチコモンズ事業等の運営推進
- ◆若手研究者クロストークによる若手人材の育成と融合研究シーズ発掘活動
- ◆機構シンポジウム・国際ワークショップ・国際シンポジウムの企画運営、開催支援
- ◆外部資金獲得に向けた研究者支援（説明会開催、提案書査読・指導、準備費支援）
- ◆プレゼン、英語論文作成指導などの研究者活動支援
- ◆共同利用・共同研究の促進、産学連携の推進、コンサルティング
- ◆国際連携協定締結等の国際研究ネットワーク形成への支援活動
- ◆Webサイト、パンフレット作成等による広報活動の充実
- ◆researchmapの活用を含む、研究力の評価・分析に係る活動（IR活動）



・事業推進  
・異分野融合  
・拠点形成

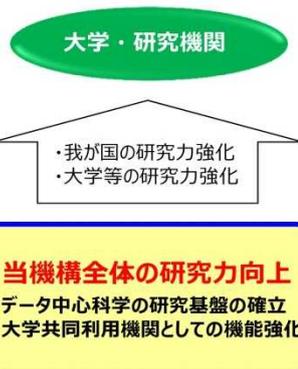
・機関連携  
・国際展開  
・研究者支援



目標

### 今後の課題と展望

- ◆データサイエンス研究基盤形成と共同利用・共同研究によるベストプラクティスの確立
- ◆ビッグデータ時代における我が国の研究力強化への貢献と全国大学研究力強化への波及
- ◆全国大学URAとの連携および機構内外におけるURAキャリアパスの形成



フォローアップ結果
<p>評点区分：順調に進んでいる</p>
<p>全体を通じた所見</p>
<p>○ 多様な分野が一つにまとまっている大学共同利用機関法人としての新たな目標（データ中心科学の基盤形成など）と本事業の目標をうまく合致させており、機構長のリーダーシップの発揮による効果が様々な取組を通じて見られるなど、順調に進んでいることが確認された。</p>
<p>特に優れた点</p>
<p>○ 総合企画本部への改組に伴い、URA と機構本部事務局・企画課を統合し、新たに「URA ステーション」を設置するなど、大胆な組織改革により、URA と事務職員が一体となって、研究力強化を推進する体制が整備されている。</p> <p>○ 多様な研究者（女性教員、若手教員、外国人教員）の確保に向けた取組に対する努力が進み、具体的な成果が現れつつある。</p>
<p>期待する点</p>
<p>○ URA の実効的なキャリアパスや評価等の制度設計については、早期の確立とともに、職員全体の視野を持って、継続的に向上させていくことを期待する。</p>